

令和8年度 学校経営計画

富山県立中央農業高等学校

1 学校教育目標

明るく豊かな社会の構成者及び農業の担い手にふさわしい人格の完成をめざし、個性の伸長と能力の開発に努め、創造性豊かで心身ともに健康で社会の進展に対応できる近代的な職業人を育成する。

2 学校の特徴

本校は、富山市南部の山間地中腹に位置し、広大な敷地（34 万平方メートル）と豊かな自然環境を有している。県下唯一の農業科単独の全日制専門高校であり、寄宿舎を有する農業経営者育成高等学校（文部科学省指定）として、創校以来、本県農業教育の中核を担ってきた。

本科並びに農業特別専攻科が設置されており、本科には、生物生産科、園芸デザイン科、バイオ技術科の3学科がある。本科では1年次は全員が同一課程を履修し、2年次以降に生徒の興味・関心、進路希望や適性等により3学科に分かれて専門科目を履修し、農業の基礎基本からスマート農業やSDGsの観点を取り入れた持続可能な農業の在り方についても学んでいる。

また、寄宿舎教育（1年次1学期は義務入寮、1年次2学期より目的入寮）をとおして豊かな人間性を涵養するとともに、専門教科と共通教科とが連携し、探究心を醸成しながら根気強く課題を成し遂げられる人間形成を目指している。

本校では、農業教育、学び直しも含めた普通教育、寄宿舎教育を三つの軸として、生徒一人ひとりの資質・能力の向上を図り、実社会で必要とされる力を身につけ、農業経営者や農業従事者を始めとする地域産業の担い手を社会に送り出してきた。

3 学校の現状と課題

本校は教育活動の多様化・活性化を図り、随時変化する社会の情勢に適応した学びや、生徒の学びの質を深めることを念頭に、専門教科と共通教科のバランスを考慮しながら、学び直しによる基礎学力の定着も図ってきた。また、学科・コースに関連する専門知識や技能を身に付けられる教育課程を編成するとともに、特別活動等を含め、生徒一人ひとりが主役になれる場を提供するよう努めてきた。

各教員の得意分野を伸ばし、それらを結集し、お互いに切磋琢磨できる集合経営体（本校独自の通称：八ヶ岳連峰型学校経営）により、今後も一人ひとりが変遷する社会に対応し、社会で求められる態度や行動を身に付け、社会性を高めることにより地域社会の未来を切り拓くことができる人材となるよう、組織的・計画的な教育活動とキャリア発達を促す継続的な支援を図っていく。

また、近年入学者の定員割れが続く現状から、中学生に選ばれる学校の在り方について教職員間や学校評議員等の意見を参考にしながら課題意識を高め、中学生のニーズ、社会のニーズを捉え、本校ならではの教育内容および方法を再構築しなければならない。一方では、本校の教育活動の動画制作、SNS等の活用、小中学校での特別授業により本校の魅力を積極的に発信し、PRしていく必要がある。

本校は、農業経営者育成高等学校として、一人でも多くの農業の担い手を輩出するという責務を果たすとともに、農業教育をとおして地域を担う職業人を育成するために、より実社会や実生活を反映した学習指導、生活指導、進路指導、特別活動指導となるよう日々指導法の改善・充実に努めることが肝要となる。今後も地域や関係機関・団体等との連携を図りながら、農業教育を基盤とした「魅力ある学校づくり」に邁進していきたい。

(様式2)

4 学校教育計画

項目		目標及び計画	
(1)	学習活動	目標	<p>①教育課程編成</p> <ul style="list-style-type: none">・学習指導要領に示すところに従い、各学科の特色を生かしながら、農業のスペシャリストとして必要な基礎的事項を確実に習得させる。また、生涯にわたって学ぼうとする態度を育てる教育課程を編成する。 <p>②学習指導</p> <ul style="list-style-type: none">・各教科、科目の基礎的・基本的事項を確実に習得させ、学習意欲の向上を図ることによって、自ら学び考える力を育てる。 <p>③農業教育</p> <ul style="list-style-type: none">・スマート農業や農業分野における AI や IOT の利用を図り、SDGsの観点を取り入れた「環境保全型農業」を推進する。・地域と連携した教育活動を通して、知識・技術や生徒の活動成果等を地域に還元する。 <p>④農業特別専攻科</p> <ul style="list-style-type: none">・担い手育成コースでは、農業の担い手に対し、経営に必要な指導助言を行い、より高度な知識と技術を身につけた経営力豊かな農業人の育成を図る。・庭園コースでは、住宅庭園、もしくは菜園等の基礎的な管理技術に必要な知識・技術の習得を目指す生徒に対し適切な指導助言を行う。
		計画	<p>①1年次は全学科共通の教育課程とし、生徒の適性、希望等に基づいて2年次より学科及びコースの選択をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none">・総合選択科目群を開講し、生徒が多様な進路を選択できるようにする。・基礎的・基本的事項を確実に習得できるような教育課程編成を研究し、必要な改善を行う。 <p>②生徒の能力・適性に応じた個別学習を進め、自主的な学習習慣を身につけさせる。</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎・基本の定着と学習意欲の向上のために、教員相互の授業研究や個人研究を推進し、わかる授業が展開できるよう、タブレットを活用した指導方法の工夫・改善に努める。・観点別評価による学習目標・学習内容等を生徒に明示し、生徒の学習意欲の向上と学習習慣の確立を図る。・学校設定科目「中農チャレンジ」を履修させることで、基礎知識の学び直しを図る。・資格取得や検定合格に向けた学習を通し、課題解決に取り組む能力と態度を育てる。 <p>③基礎的・基本的事項の習得と定着を目指し、農業クラブ活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none">・「総合実習」等の学習を通して基礎的技術や経営能力を身につけさせ、責任感、自主性及び協調性を育む。・GPS 搭載トラクタや環境制御温室およびアイガモロボを活用したスマート農業を実践する。・SDGsの観点を取り入れた循環型農業教育に取り組む。・野生動物による被害の少ない作物を選定・栽培し耕作放棄地の解消に努める。・地域課題の発掘とその解決に取り組み、地域から求められる教育実践を進める。 <p>④農業特別専攻科担い手育成コースでは、在宅学習に重点をおき、経営現場での問題点を解決する能力と技術の向上を図る。</p> <p>農業特別専攻科庭園コースでは、講義と実習、県内外の優れた庭園等の見学研修などを通して、庭園管理に必要な基礎的な知識と技術を身につける。</p>
(2)	学校生活	目標	<p>①生活指導</p> <ul style="list-style-type: none">・基本的な生活習慣を身につけるための環境づくりを行う。・校則や社会のマナーや規範を遵守する態度の育成に努める。 <p>②寄宿舎教育</p> <ul style="list-style-type: none">・寄宿舎生活を通して自主・協同・勤労の精神を涵養し、責任感と協調性のある人間を育てる。 <p>③学校保健・教育相談</p> <ul style="list-style-type: none">・心身の健康保持・増進に必要な知識や技術の習得を通して、生涯にわたって健康で安全な生活を送るための能力や態度を育成する。

	<p>重点3</p> <p>重点4</p>	計画	<p>①生徒とのコミュニケーションを通して生徒理解に努め、生徒自身が基本的な生活習慣の大切さを考える環境をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らが自己の行動に責任を持つことができるよう指導・声掛けを行う。 ・信頼される中農生として、学校生活3か条「挨拶をする、服装を正す、時間を守る」を意識できるよう継続的な指導・声掛けを行う。 ・登下校時の交通事故回避のため安全意識を養う。 ・全教職員の共通理解を図り、学年、学科、各分掌が連携した共通実践を行う。 ・家庭や地域との協力体制を確立する。 <p>②全教職員の共通理解による、一貫した生活指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舎生活を通して相互の信頼と敬愛の精神を育む。 ・寮生の自治組織である寮生会が主体となって行事の計画・立案および運営できる体制を整えるとともに、自らルールを設定し、周知・徹底できるよう支援する。 ・生徒一人一人の理解に努め、自主性を大切にしながら、個性の伸長を図る。 ・生活指導を通して、環境保全教育を推進する。 <p>③生徒の健康、精神衛生、性の問題に関する指導・支援を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会や刊行物などを利用し、健康的な生活習慣が身につくように指導する。 ・健康相談、教育相談等に関する教職員研修会を実施する。 ・健康教育が円滑に進められるよう、家庭との連携と全教職員の共通理解を図る。
(3)	進路支援	目標	<p>○進路支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間としての在り方生き方について考え、自らの人生に夢と希望を持たせる。 ・主体的な進路選択の能力と、目標に向かって自主的に努力する態度を育てる。
	重点5	計画	<p>○3年間を見通した進路指導計画を確立し、各学年で重点的に取り組む内容を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の高揚を図り、目標を早期に決定させるとともに、進路目標の実現に向けた学力の向上を図る。また、就職指導においては、勤労の意識を高め、安易な職業選択を行わないように指導する。 ・早期より、就農意欲の高揚を図り、具体的な方策を講じて担い手の育成に努める。 ・3年間を見通したキャリア教育を計画し、生徒の職業観、勤労観の育成を目指す。 ・農業関連企業および農業行政との連携を強化し、生徒と企業のマッチングを図る。
(4)	特別活動	目標	<p>①特別活動指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団活動を通して、調和のとれた心身の発達と個性の伸長を図り、よりよい生活を築こうとする態度を育てるとともに、人間としての在り方・生き方について考えさせる。 <p>②読書指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朗読鑑賞会等の行事を通し、読書に対する興味、関心及び思索する態度を育成する。
		計画	<p>①生徒会活動では、各種委員会活動を活発に展開し、生徒の自主性を育て、責任感及び協調性を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームルーム活動では統一テーマを設定し、協働して問題を解決する能力を育てる。 ・各学校行事の目的と意義、評価の観点を明確にし、指導方法の改善を図るとともに、教育効果が上がるよう内容を精選する。 <p>②読書意欲の高揚を図るため、教科及びホームルーム活動を通して読書指導を行う。また、積極的に新着図書の紹介を行い、図書室利用を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習資料、教養に関する図書、教師研究図書の整理と、農業専門書等の充実を図る。 ・視聴覚教材の充実と利用体制の整備を図る。 ・各学年における朗読鑑賞会をより充実させる。
(5)	その他	目標	<p>○保護者との連携 教育方針、教育活動の推進に対する保護者の理解を促し、積極的な協力を得る。</p>
		計画	<p>○刊行物及び教育活動の動画を積極的に利用し、本校の教育活動への理解を促す。また、保護者が生徒の学習状況を直接確認できるよう、学習参観日や農場見学日などを設定する。</p>

(様式3)

5 学校アクションプラン

令和8年度 中央農業高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	学習習慣の確立と学習意欲の向上
現 状	○生徒の学力差が大きく、より生徒の実態に応じた指導が大切である。 ○生徒の学習状況より、予習復習等を行っていない現状がある。 ○アグリマイスター顕彰制度認定者数が年々増加している。 R 5 (11%) R 6 (19%) R 7 (43%)
達成目標	●自学自習ポイント優秀賞獲得 (30点以上) . . . 学年20%以上 ●アグリマイスター顕彰制度認定者 . . . 3年生20%以上
方 策	○アグリマイスター顕彰制度 学期に1回程度、自身のポイントを計算させ、資格取得について自身の現状を可視化し意識の向上を行う。 ○自学自習の取り組み 自学自習ノートの継続的な取り組み。 ○中農チャレンジ、朝学習 ・取り組み内容の精査と国・数・英の底上げ。 ・中農チャレンジでは少人数でのクラス分けにより、個々が充実できる環境を設定する。

令和8年度 中央農業高等学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	基礎的・基本的知識技術の習得
重点課題	「資格取得と客観的評価」
現 状	例年、各資格取得に対する目標を示しているが、資格取得が進学や就職に及ぼすメリットが生徒に十分に伝わっているとは言えない。そのため、対策講座を実施しても参加人数が少なく、自主的な学習においても合格できる水準に満たず、達成目標に届いていないと考えられる。
達成目標	1 学年「日本農業技術検定3級合格」 学年取得率 20%以上 2 学年「日本農業技術検定3級合格」 学年取得率 30%以上 3 学年「日本農業技術検定3級合格」 学年取得率 40%以上
方 策	・ 検定の実施日、日程については保護者、生徒に連絡する。 ・ 検定の指導體制については、授業内で検定に触れ、対策講座を開講する。 ・ 検定取得は進学や就職に有利になるというメリットを理解させ、より多くの検定受検に挑戦するようにクラス担任、生徒に意識的に働きかける。

重点項目	自己責任を考える	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・民法改正による18歳成人引き下げに伴い、生徒自らが自己の行動に責任を持つことができる。(自己責任) ・信頼される中農生として、学校生活3か条「挨拶をする、服装を正す、時間を守る」を意識できる。(時間の管理) ・登下校時において交通事故の危険を回避することができる。(命の尊さを考える) 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね学校ルールを遵守できている。自分自身の行動の一つ一つの結果までを考えるまでには至っていない。 ・学校生活3か条は、過去の取り組みから、年々意識向上している。今年度もこれらを定着させるために、粘り強い指導を継続する。 ・交通安全への意識は十分とはいえないため、継続的に指導する。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己責任について考えることができる。 ・時間管理がしっかりできる。 <p>[達成目標] : 生徒へのアンケートにおいて達成できた→95%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車、歩行による交通安全意識の向上 <p>[達成目標] : 交通ルールを守る意識向上 事故件数 ゼロ</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの実施 ・各学期の始業式と終業式および大型連休前に校則の遵守指導を実施。 ・生徒会執行部と希望者による平日8:00~8:20に寮から本館の渡り廊下付近にて「あいさつ運動」を実施。 ・生徒会執行部を中心に時間管理や自己責任の啓蒙活動を実施。 ・HR会長、風紀委員を中心に生徒への呼びかけを実施。 ・教職員が一丸となって生徒との「信頼関係」を構築し、厳しい中にも「褒めて伸ばす」指導を確立させ、行動に自信の持てる中農生成成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室において意識調査の実施。 ・全体への指導：各学期の始業式と終業式および大型連休前に交通安全指導を実施する。 ・交通安全街頭指導の継続。(中農坂～福沢地内) ・校地内(中農坂～T字路まで)の自転車運転の禁止と安全点検の徹底。

重点項目	寮生会活動の活性化について	
重点課題	寮生会が主体となって、寮生の安心と安全を保障し、且つ充実した生活を送れるような、寮運営を進めていきたい。そのための意識の涵養を目指すものである。	
現 状	<p>現在、寮生会の諸活動および、寮内のルールは、主に教員が中心となって計画・運用されている。寮生の自治組織である寮生会が主体となって、行事の計画、立案及び運営していく体制を整えるとともに、自らルールを設定し、全寮生へ周知、徹底を図ることを目標とした寮生会運営を望むところである。以上のことから、下記の通り、対策を講じていきたい。</p> <p>対策1 『寮生会役員会について』</p> <p>週1回、役員会を設定し、諸行事と規則についての話し合いの場を設ける。話し合われた内容をまとめ、寮生への周知の仕方等について検討させる。</p> <p>対策2 『夕べの集い・寮生集会について』</p> <p>毎日夜に夕べの集い・月1回に寮生集会を設け、役員会で諮った内容を周知させるとともに、組織的な運営の仕方について、学ぶ機会とする。</p>	
達成目標	<p>①週1回の寮生会役員会の実施と毎日夜に夕べの集い、月1回に寮生集会を実施できる。</p> <p>②寮生が主体となって行事等を企画、立案、運営することができる。</p>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・寮生会顧問および寮務部職員が中心となって指導し、活動を具体化させる。 ・寮生全員が協力し、寮運営が進められるよう奮起を促す。 	

重点項目	進路支援																			
重点課題	進路先の確保、インターンシップ体験率の向上																			
現 状	<p>本校は農業科の単独校ではあるが、実際の就職や進学は多様な分野にわたっており、卒業後ただちに就農する生徒は少ない。しかし長期的な展望において、生徒が卒業後に他の分野での知識や技術を活用し、新時代に対応した就農につなげていくことを期することから、どの分野への進路についてもそれぞれの適性或志望に応じた支援をすることに努めている。</p> <p>具体的には、進学では、国公立大学農学部への進学を志す生徒がいる一方で、経済系や情報系の専門学校等への志望者もおり、また就職の志望先においても、農業法人のみならず、製造、販売、建築、サービスと幅広い。そこで各学年において、ワークショップ形式とガイダンス形式との両方で、それぞれ進路学習の時間を設けるとともに、民間業者や企業団体等の協力を得て、進学や就職についての相談会も適宜開催し、就農に特化した相談会も年に1回開催している。</p> <p>さらに2年次においてインターンシップを実施するとともに、3年次では解禁日以降になるべく積極的に応募前企業見学に臨むよう勧めている。</p> <p>過去3年間のインターンシップ実施状況 (※数字は各年度3月調査のもの、分母は在籍数)</p> <table border="1" data-bbox="387 734 1393 1014"> <tr> <td data-bbox="387 734 603 869">第2学年までの体験者数</td> <td data-bbox="603 734 802 869">R4年度 24/37人 (65%)</td> <td data-bbox="802 734 1002 869">R5年度 42/42人 (100%)</td> <td data-bbox="1002 734 1201 869">R6年度 27/28人 (96%)</td> <td data-bbox="1201 734 1393 869">R7年度 29/34人 (85%)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">↓</td> <td style="text-align: center;">↓</td> <td style="text-align: center;">↓</td> <td style="text-align: center;">↓</td> <td style="text-align: center;">↓</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 869 603 1014">第3学年までの体験者数</td> <td data-bbox="603 869 802 1014">R5年度 30/36人 (83%)</td> <td data-bbox="802 869 1002 1014">R6年度 42/42人 (100%)</td> <td data-bbox="1002 869 1201 1014">R7年度 28/28人 (100%)</td> <td data-bbox="1201 869 1393 1014">R8年度 / 人 (%)</td> </tr> </table>					第2学年までの体験者数	R4年度 24/37人 (65%)	R5年度 42/42人 (100%)	R6年度 27/28人 (96%)	R7年度 29/34人 (85%)	↓	↓	↓	↓	↓	第3学年までの体験者数	R5年度 30/36人 (83%)	R6年度 42/42人 (100%)	R7年度 28/28人 (100%)	R8年度 / 人 (%)
第2学年までの体験者数	R4年度 24/37人 (65%)	R5年度 42/42人 (100%)	R6年度 27/28人 (96%)	R7年度 29/34人 (85%)																
↓	↓	↓	↓	↓																
第3学年までの体験者数	R5年度 30/36人 (83%)	R6年度 42/42人 (100%)	R7年度 28/28人 (100%)	R8年度 / 人 (%)																
達成目標	3年生の進路先決定率100%、2年生のインターンシップ体験率90%以上																			
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポート等を活用しながら、生徒の自己理解を深めさせ、同時に進路についての相談会等を各学年ともに年間に複数回開催する。 ・各大学等の入試情報を全国レベルで収集するとともに、アドミッションポリシーに着目し、生徒の適性を勘案しながら農業学習や寮生活での体験を活用できるように支援する。 ・インターンシップについては、農林水産公社等とも連携し、受け入れ先の増加や事業所との情報交換を促進させる。 																			